

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	集団広聴事務事業			事業コード	0075
所属コード	120500	課等名	広聴広報課	係名	広聴係
課長名	大倉慎澄	担当者名	白石雄太	内線番号	3632
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	信頼される質の高い行政	コード	8
	施策	市民とともにつくる行政の実現	コード	3
	基本事業	広聴機能の充実	コード	2
予算費目名	一般会計 2 款 1 項 2 目 集団広聴事業（003-01）			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	昭和 40 年代 後半
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

市政推進懇談会は、市政運営方針、予算、各部の重点施策について各町内会長、自治会長を対象に年に一度説明と懇談を行う。

まちづくり懇談会は、市町内会連合会、玉山区自治会連絡協議会と各コミュニティ地区との共催により、地域課題を解決するため市と地域が懇談するもので、2 年で全 30 地区を一巡する。

市長のおでかけトークは、市長が市内で活動する団体と団体の活動内容や、市政に対する提言を聴く機会とする。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

市政推進懇談会：各町内会長等の意見を直接聞き市政に反映するとともに、地域と市の信頼関係、相互関係を深めることを目的とし、昭和 52 年から開催している。

まちづくり懇談会：昭和 40 年代後半から行っていた「移動市役所」が契機となり、市長と市民の対話の機会を設け、市民の声を市政に反映するために行っている。

市長のおでかけトーク：市民の生の声を聞くことを目的として、平成 16 年から開催している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

地域推進協働計画の策定に伴い、市と地域の関係がこれまで以上に重要になることから、市政推進懇談会とまちづくり懇談会の内容を充実させ、まちづくりに資するものとするのが求められる。このため、まちづくり懇談会でのアンケート結果に注意を払い、各地域の要望に応えるよう努めるものである。

市長のおでかけトークについては、申込み団体が減少傾向にあることから、市側からの積極的なアプローチによる開催が必要である。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が，何が対象か）

- ・町内会，自治会の会長
- ・市民，地域（コミュニティ）

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 市民	人	298,148	298,853	298,853	299,220	299,220
B 町内会数	町内会	374	374	377	377	376
C 地域（コミュニティ）の数	地域	30	30	30	30	30

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

◎市政推進懇談会

- ・年度初めに，市町内会連合会及び玉山区自治会連絡協議会と共催で，町内会長，自治会長等を対象に懇談会を開催。
- ・市から市政運営方針，予算，各部の重点施策を説明し，参加者から市政全般に対する意見，提言を伺い，担当部長が回答した。

◎まちづくり懇談会

- ・市，市町内会連合会及び玉山区自治会連絡協議会が共催し，15 地区で開催。
- ・コミュニティ地区の地域住民と地域課題やまちづくりの方向性について懇談した。

◎市長のおでかけトーク

- ・市内で農業を営む若者の集まりである「盛岡市農業青年スタッグビートルズ」と，県内各地で地域の女性リーダーとして活動している「NPO 法人いわて翼の会」が，それぞれの団体で考えるまちづくりや抱える問題などについて，市長と懇談した。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 市政推進懇談会開催回数	回	1	1	1	1	1
B まちづくり懇談会開催地域数	地域	15	15	15	15	15
C 市長のおでかけトーク開催数	回	1	1	2	2	2

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

◎市政推進懇談会

- ・町内会長・自治会長等に市政を理解してもらう。
- ・町内会長・自治会長等の意見提言を市政運営に生かす。

◎まちづくり懇談会

- ・地域住民の市政への理解を深め，市と住民の協働によるまちづくりへの意識の醸成を図る。
- ・地域住民の懇談事項・要望事項を市政に反映する。

◎市長のおでかけトーク

- ・市長と市民が直接市政に関する懇談を行い、市政に反映する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 市政推進懇談会出席者数	■上げる □下げる □維持	人	189	186	200	196	200
B まちづくり懇談会出席者アンケートの満足度	■上げる □下げる □維持	%	60.6	57.0	65.0	63.1	65.0
C 市長のおでかけトーク出席者数	■上げる □下げる □維持	人	6	24	50	34	50

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	364	197	28	28
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	364	197	28	28
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	0	0	0	0
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	0	0	0	0
計	トータルコスト A+B	千円	364	197	28	28
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

市民の市政への参加に繋がり、市民の声が市政に反映される。

② 市の関与の妥当性

市長をはじめとする市が直接市民の声を聞くものであり、市が行うべき事業である。

③ 対象の妥当性

市民を対象としているものであり、拡大や絞る余地はなく妥当である。

④ 廃止・休止の影響

市政推進懇談会：地域住民の代表としての町内会長等に、市政についての理解協力を求め、懇談する機会を失うこととなる。

まちづくり懇談会：市長をはじめとする市が、定期的に地域に直接出かけて懇談を行う数少ない機会であり、地域住民の声を聞く機会を失うこととなる。

市長のおでかけトーク：市長が市民と直接話す貴重な機会を失うこととなる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

まちづくり懇談会については、参加者の年齢が高い傾向にあることから、幅広い年代の市民が参加することにより、充実した懇談会になると思われる。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

市民を対象としているものであり、受益機会は公平・公正である。

(4) 効率性評価

懇談会の資料作成のための用紙購入及び印刷に係る経費のみの予算であり、削減の余地はない。

なお、平成 23 年度に懇談会当日の従事者を減らし、人件費の削減に努めている。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

まちづくり懇談会への幅広い年代の参加について、各地域団体をお願いする。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

地域によっては、参加者を町内会役員等に限定している場合も見受けられることから、自由に参加できるよう柔軟な対応を地域をお願いする。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

まちづくり懇談会における参加者アンケートを見ると、全体で6割以上の参加者が「満足」又は「やや満足」と答えており、引き続き、満足度の向上に努める必要がある。市長をはじめとする市側と地域の方々とが直接話をする貴重な機会であり、円滑に事前準備を進めるとともに、当日の進行、説明等を工夫をし、参加者の満足度を上げていきたい。